

子育て応援券実態調査の実施について

子育て応援券について、今後の事業の見直しの検討にあたっての基礎資料とするため、以下の通り実態調査を実施いたしましたのでご報告いたします。

1 調査内容

(1) 目的

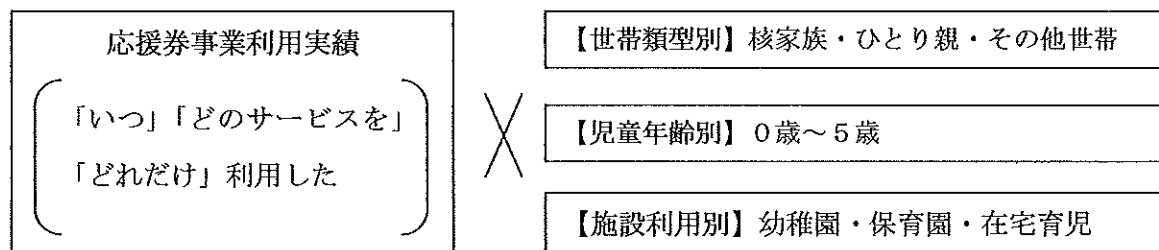
子育て応援券について、利用時年齢、保育施設等利用状況及び世帯構成別に、集計・分析を行うことで、利用実態や傾向を明らかにする。

(2) 調査対象

以下の子育て応援券の利用実績

応援券発行年度:平成 23～25 年度分 応援券利用期間:平成 23 年 4 月～平成 26 年 12 月

【調査・分析の概要】



2 調査結果

資料7別冊「杉並子育て応援券利用実態調査《速報版》」のとおり

裏面：速報版の主な傾向や特徴

3 今後のスケジュール(予定)

平成 27 年 8 月 第 2 回子ども・子育て会議に実態調査結果及び今後の方向性の報告

平成 28 年 4 月 子育て応援券事業の見直し実施

主な傾向や特徴

【P3】 1(2)「券種別の利用率」

券種別の発行額に対する利用率

- ・ 応援券の発行額に対する全体の利用率は、ここ3年間で86.5%、79.2%、64.5%と推移していますが、出生時応援券は他の券種に比べて利用率が低い状況にあります。

【P4】 3「☆応援券利用状況の対象世帯による集計☆」

(1)②「世帯タイプ別：応援券を全く利用していない世帯」

世帯数からみた利用率の状況

- ・ 応援券は全体の7割近くの世界から利用されていますが、ひとり親世帯で利用率が低い傾向がみられます。

【P5】 (2)「①応援券を全く利用していない世帯」

世帯内の児童数からみた利用率の状況

- ・ 世帯内の未就学児の人数が多くなるほど利用率が高くなる傾向があります。

【P8】 (1)「②年齢別：応援券を全く利用していない」

児童の年齢別にみた利用率の状況

- ・ 0～2歳児では約75%が応援券を利用しており、3～5歳児では約40%が利用しています。

【P10】 「4 券種別のサービス利用推移(1)～(3)」

券種別にみたサービス利用の状況

- ・ 出生時応援券では、「子育て相談」の利用率が高く、その他の券では、「特定施設での一時保育」や「親も子も楽しむ交流事業」が高い傾向にあります。

【P16～18】 「6 施設タイプ別の有償券と無償券の利用の推移について」

施設タイプ別でみたサービス利用状況

- ・ どのタイプも「親も子も楽しむ交流事業」の利用率が高い傾向にあります。
- ・ 施設タイプ別でみると、幼稚園（施設A）利用者では「特定施設での一時保育」、保育園（施設B）利用者では「インフルエンザ予防接種」、在宅育児（施設C）では「子育て相談」が高い傾向にあります。